

建設会報 いずも



No.128
2015年 新春号



編集・発行人 一般社団法人
島根県出雲地区建設業協会
経営改善研究委員会

表紙の言葉



出雲阿国歌舞伎

えと文 / 渡部良治

2005年ユネスコの無形文化遺産に登録された歌舞伎は、日本が世界に誇れる伝統芸能のひとつ。その歌舞伎の始祖といわれる「出雲阿国」の生誕地出雲では、毎年「出雲阿国歌舞伎」として松竹大歌舞伎公演が行われています。

昨年は四代目市川猿之助の公演が行われ、入場券の発売日には行列ができ即日完売となる程の人気ぶりでした。

今年の「第26回出雲阿国歌舞伎公演」は、11月20日大社文化プレイスうらら館で行われ尾上菊之助が登場します。

菊之助は、襲名披露で演じた「弁天娘女男白浪」の弁天小僧で、父菊五郎の芸を確実に継承し、輝くようなみずみずしい美貌と清潔な色気で、若女形と二枚目が本領。歌舞伎界を背負う若手スターの一人として注目されています。



C O N T E N T S



- ▶ 巻頭言／中筋 豊通〔一般社団法人島根県出雲地区建設業協会会長〕……1
- ▶ 新年のご挨拶
 - ／舛田 直樹〔国交省出雲河川事務所長〕……………3
 - ／八木 勝也〔出雲労働基準監督署長〕……………4
 - ／伊藤 敏成〔出雲警察署長〕……………5
 - ／永井 克彦〔出雲県土整備事務所長〕……………6
- ▶ 平成26年度優良工事表彰／表彰一覧……………7
- ▶ 優良工事表彰を受賞して／持田 正司〔㈱浜村建設〕……………9
- ▶ 全国建災防大会を振り返って
 - ／安全委員会副委員長 三代 修治〔㈲斐川建設〕……10
- ▶ 年男の抱負／浜村 一雄〔㈱浜村建設〕……………11
- ▶ 年男の抱負／岩崎 利行〔岩崎建設(有)〕……………12
- ▶ 伊勢研修旅行記
 - ／経営改善研究委員長 手銭 弘明〔㈲神門組〕……………13
- ▶ 斐伊川水系総合水防演習開催さる
 - ／陶山 幸夫〔㈱中筋組〕……………14
- ▶ インターンシップ体験談……………15
- ▶ 第27回 サラリーマン川柳……………17
- ▶ お世話になりました／小野 博己
 - 〔一般社団法人島根県出雲地区建設業協会事務局〕……19
- ▶ 編集後記
 - ／経営改善研究委員 今岡 幹晴〔今岡工業(株)〕……………20





群羊を駆りて 猛虎を攻む 皆で『一生を引き受ける覚悟を!』

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会
会 長 中筋豊通

平成二十七年「乙未」^{きのとひつじ}明けましておめでとうございます

「未」み。ひつじの他に、否定、ゆくすえ、つぐ、つづく、木が年をえて枝葉が茂る、の意味もあります。

未⇒羊 羊は群れをなして行動するため、安泰や平和をもたらすとされています。そのためか、美、義、善、翔、祥など、良い意味を持つ字に「羊」が使われています。今年こそ縁起の良い「羊」にあやかって、良い年にしたいものです。

さて、平成27・28年度、県の入札参加資格審査項目が、若干変更となりました。正しく、

- ①雇用を支え、地域経済の牽引役として頑張る企業
- ②地域の安全・安心を支える企業
- ③安全第一、良いものが作れ、経営努力を重ねる企業

地域のために、地域とともに、信頼される企業を目指し、頑張る企業、そんな建設業者を育てて行きたい。県の我々への期待が、こうあって欲しいという意図がはっきりと読み取れます。

今春から、いよいよ品確法・入契法・建設業法が改正されての「運用指針に基づき、発注事務の運用が開始されます」建設投資の急減や受注競争の激化で、疲弊した地域の建設業の課題を解決するため、ダンピング受注の防止と、受注者の適正な利潤を確保するなどの責務を、発注者に課しましたが、大事なのは受注者の責務として、労働環境の改善に取り組むことも求めていることです。

建設技能労働力の確保に関する調査報告書の中で、若年者が入職しない理由は、「収入の低さ」が最も多く、次いで「仕事のきつさ」、「休日の少なさ」、「作業環境の厳しさ」と続きます。

新たな「国土のデザイン」の概要が発表され、「基本戦略」も示されました。

- ①コンパクトな拠点とネットワークの構築
- ②移動と交流・連携の促進
- ③地域経済を支える産業の活性化
- ④災害に強い国土のリノベーション
- ⑤美しい国土を守り、育てる
- ⑥エネルギー制約・環境問題への対応
- ⑦インフラを賢く、長く使う
- ⑧技術革新を取り込む社会をつくる
- ⑨子供から高齢者まで生き生きと暮らせるコミュニティの再構築
- ⑩国土・地域の担い手づくり

この、新しい日本のグランドデザインが、絵に描いた餅にならないよう、受・発注者が協力して「責務」を果たさねばなりません。

会員の皆さん、若者が魅力を感じ、入職し、業界で働く人々が、生涯を託せる、そんな産業を目指し、地域全体で、建設産業全体で、一生を引き受ける覚悟を持って、頑張ってください。

素晴らしい明日は必ず来ます、努力を、行動を開始しましょう。

今年もお世話になりますが、宜しくお願い致します。

ありがとうございました。



新年のご挨拶



国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所
所長 舂田 直樹

平成 27 年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方には、国土交通行政、とりわけ斐伊川水系の河川事業の推進へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

出雲河川事務所では、いわゆる斐伊川水系治水 3 点セットの対策を進めています。このうち、上流部の志津見ダム、尾原ダム、中流部の斐伊川放水路が完成し、出水時に水位低減効果を発揮しているところです。残る下流部の大橋川改修及び中海・宍道湖湖岸堤整備については、地元協議等を進め、工事が本格化しつつある中で、昨年末には天神川水門が概成するなど、事業に対する実感が確実に広がっています。これらの事業進捗については、貴協会会員の皆様方の長きにわたるご理解・ご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。また、河川管理施設の維持管理についても、従来のサイクル型維持管理に加えて、100 年安心の河川を目指した管理を実践してまいります。

本年は、地方創生の取組が進められる中、安全・安心な地域づくり、地域の活性化に向けて、流域一体で 3 つの取組を進めてまいります。洪水などから人命や財産を守る上で「治水」と「水防」は両輪であり、地域水防力の向上が不可欠です。昨年「斐伊川総合水防演習・島根県総合防災訓練」を斐伊川では 14 年ぶりに開催し、行政・関係団体計 52 団体及び地域から約 1,500 名に参加頂きました。また、浸水等被害の発生を前提として、発災前から関係機関が実施すべき対策をまとめたタイムライン（防災行動計画）の策定にも着手しています。

次に、市民・企業・行政が一体となって水辺とまちが一体になった美しい景観を創造し、水辺での新しいムーブメントを起こす「ミズベリング・プロジェクト」を開始しています。ミズベリングの推進主体として「ミズベリング縁」を創設し、昨年 11 月末には「ミズベリング松江会議」を開催したところです。

さらに、生態系ネットワークの形成による流域づくりの取組を進めています。斐伊川水系はラムサール条約登録湿地である宍道湖・中海を抱え、ガン類やハクチョウ類など大型水鳥が飛来する全国的にも豊かな水辺環境を有しています。こうした環境の保全や創出、大型水鳥類の魅力を活かした持続的な観光地づくり、農業分野の活性化に向けて関係機関・団体と連携して取り組んでまいります。

建設業は地域の安全・安心を守り、経済を支える「砦」です。災害時の対応だけでなく、長大な河川堤防等の維持管理には地元精通した建設業者が不可欠です。女性技術者の活用、若手技術者の育成などを通じた、地域防災力の向上に期待しております。出雲地方を支える基盤づくりを担う一員として、引き続き皆様方と力を合わせていきたいと思っております。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲労働基準監督署
署長 八木 勝也

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、平素より労働基準行政、とりわけ労働災害の防止につきましては、ご理解、ご協力を賜っておりますことを改めて厚く御礼申し上げます。

さて、平成26年における当署管内の建設業の労働災害発生状況は、11月末で27件と、昨年同期比で9件の減少を見ております。全産業においても203件と昨年同期比で3件の減少となっております。

死亡災害は建設業においては1件、感電による死亡災害が発生しております。全産業では死亡災害は2件発生しておりますが、昨年は4件であり、2件の減少を見ております。

災害が減少してまいりましたのは、皆様の平素よりのご努力のおかげではありますが、それでも、2名の尊い人命が失われる結果となりましたことは非常に残念でなりません。

特に建設業において発生しました感電による死亡災害は、災害の発生状況を分析すると、段取りや、事前の打ち合わせが十分に出来ていれば防止できた可能性が高く、なんとか事前に防止する方法はなかったのか、当署の平素からの建設業に対する指導は十分だったのだろうかと反省しております。

家庭においては良き父、良き夫であった被災者がある日、突然、いなくなってしまう。そういったご遺族の悲しみを思いますと、災害防止に全力をあげなければ、という思いが湧き起ってまいります。

新しい年を迎えるにあたり、当署におきましても、建設業のみならず、全産業において、死亡災害を根絶させ、働く人全ての命と安全を守るとの決意で、監督・指導に当たることとしておりますが、各事業者の皆様におかれましても、私どもの思いを共有していただきますとともに、法令遵守はもとより、リスクアセスメントを実施することにより、災害の発生原因を排除し、一層の安全管理の向上をお願いいたします。

災害、特に重大災害の防止のためには、作業に潜む危険の芽を摘むこと、また、リスクを認識し、正しい作業手順で作業することが必要不可欠となります。このためにリスクアセスメントに手法は大変有効ですので、まだ導入されていない事業場につきましては本年こそは導入いただき、より安全な職場造りをお願いいたします。

最後になりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の益々のご発展と会員の皆様の益々のご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲警察署
署長 伊藤 敏成

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様におかれましては輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また昨年中は、お忙しい業務の中、暴力団排除活動や交通安全活動、犯罪捜査等の警察業務の各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜りましたことに対し厚く御礼申し上げます。

昨年中における島根県内の犯罪情勢は、盗難事件などの刑法犯の認知件数が前年より増加し、近年社会問題となっている振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害額も増加の一途をたどっており、皆様の体感治安は決して良好とは言えない状況であります。

さて、暴力団情勢に目を向けてみますと、昨年9月に全国で唯一「特定危険指定暴力団」に指定された福岡県北九州市に拠点を構える「工藤會」の総裁をはじめ最高幹部を一斉逮捕し、また、県内においても、山口組傘下団体の幹部組員による野球賭博事件を検挙するなど全国警察が総力を挙げて暴力団壊滅に向けて取り組んでいるところであります。

しかしながら、当県内三団体を中心として現在も勢力拡大を図ると共に潜在性を高め、あらゆる資金獲得活動を行っているのも事実であります。

平成23年4月に「島根県暴力団排除条例」が施行され、平成24年4月には「出雲市暴力団排除条例」が施行となり、出雲市民と行政、そして警察が一体となった暴力団排除活動に取り組んでいるところであります。

出雲警察署管内では、皆様のご協力により長年にわたり暴力団組事務所の進出を許しておりません。今後も暴力団のない明るく住みよい社会を維持していくため、皆様方には引き続き

- 暴力団を利用しない
- 暴力団を恐れない
- 暴力団に金を出さない

の「暴力団追放三ない運動」に

- 暴力団と交際しない

をプラスした「**暴力団追放三ない運動+1**」の実践をお願い致します。

出雲警察署といたしましても、引き続き協会の皆様方と緊密な連携を図りつつ、犯罪のない安心で安全なまちづくりの実現に向け、署員一同、誠心誠意取り組んで参りますので、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



出雲県土整備事務所
所長 永井 克彦

新年明けましておめでとうございます。一般社団法人島根県出雲地区建設業協会の皆様方にはすがすがしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、皆様方には平素より出雲県土整備事務所が取り組んでおります社会基盤の整備や公共施設の維持管理に対しまして、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

一昨年厳かに執り行われました出雲大社本殿遷座祭・奉祝行事に多くのお客様が県内外から参拝されましたが、昨年もその賑わいは絶えることなく続き、地元のみなさまも「おもてなし」の心を持ってお客様を迎えられていました。

社会基盤整備にあたっては、県内外のお客様はもとより地元のみなさま方にも喜んでいただけるよう、多くの方々の意見を拝聴し、周辺の環境や景観にも配慮した整備に今後も努めたいと考えています。

さて、一昨年三次まで開通した中国横断自動車道「尾道松江線」は、今春いよいよ尾道までの全線が開通する予定ですが、松江～尾道間の所要時間が約2時間30分と、整備前と比べ約80分短縮され、出雲圏域と山陽がより身近になり、山陰・山陽を結んだ広域的観光ツアーなど新たな観光ルートの開発や観光産業の活性化が期待されるところです。

また一方で、2013年12月に成立した国土強靱化基本法により、防災・減災への取り組みが今後一層本格化することとなります。

出雲県土整備事務所といたしましても、「**広域交通ネットワークの強化**」として矢尾今市線、出雲三刀屋線等の幹線道路の整備促進や「**観光振興**」として大社神門通りの早期完成を図るとともに、競争力のある産業育成のため出雲河下港の整備、農業基盤の整備を推進してまいります。また、老朽化したトンネル・橋梁等の修繕や橋梁の耐震補強、市街地における低平地河川改修、中山間地における生活道路・土砂災害防止などの事業を強力に推進してまいります。

こうした取り組みを通じて出雲圏域全体の安全・安心の確保、活力の創出につながる社会基盤の一層の充実を図ってまいりますので、引き続き関係者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、新年の挨拶といたします。



平成 26 年度(平成 25 年度完了) 島根県優良工事等知事表彰

◇優秀建設技術者表彰（優良工事知事表彰）

| 部門 | 工種 | 工 事 名 | 会社名／代表者 | 監理技術者 |
|----------|----------|---|--------------------------|-------|
| 土木 | 道路 | (一) 佐田小田(停)線一窪田工区 国庫交付金道路(改良)工事 | 今岡工業株式会社 代表取締役 今岡 余一良 | 伊藤 雅巳 |
| | 河川 | 新内藤川県単河川緊急整備工事 第2工区(高岡南橋下部工) | 大福工業株式会社 代表取締役 福代 明正 | 石橋 茂吉 |
| 農林 水産 | 農業 土木 | 平成24年度 中山間地域総合整備事業 (一般型)出雲南地区 山寄石畑集落道 道路(その5)工事 | 株式会社 今岡興産 代表取締役 今岡 裕統 | 伊藤 賢 |
| | 森林 土木 | 平成24年度 災害関連緊急治山事業 (御幡川)山腹工事 | 今岡工業株式会社 代表取締役 今岡 余一良 | 藤原 寛 |





平成 26 年度(平成 25 年度完了) 島根県優良工事等所長表彰

◇優良工事表彰及び優秀建設技術者表彰

| 部門 | 工種 | 工 事 名 | 会社名/代表者 | 主任技術者又は 監理技術者 |
|----------|----------|--|----------------------------------|--------------------------------|
| 土木 | 道路 | 国道 431 号 東林木バイパス 改築 (改良) 工事 第 7 期 | 大 福 工 業 株 式 会 社 代表取締役 福代 明正 | 中尾 宏 |
| | | 国道 431 号 東林木バイパス 改築 (改良) 工事 第 4 期 (2 月補経済対策) | 株 式 会 社 ダ イ ニ 代表取締役 安達 稔 | 渡部 義孝 |
| | | (一) 佐田八神線 反辺工区 防災安全交付金 (改良) 工事 (2 月補経済対策) | 株 式 会 社 今 岡 興 産 代表取締役 今岡 裕統 | 石橋 聖一 |
| | | (一) 十六島直江停車場線 西代橋 国庫交付金道路 (橋梁修繕) 工事 | 株 式 会 社 フ ク ダ 代表取締役 長岡 秀治 | 穴戸 克己 |
| | 河川 | 午頭川 一括交付金 (総流防) 工事 護岸工 | 株 式 会 社 ト ガ ノ 建 設 代表取締役 梶野 直宏 | 飯濱 健 |
| | 砂防 | 阿式谷川 通常砂防 (防災安全) 工事 | 有 限 会 社 間 壁 組 代表取締役 間壁 和弘 | 小池 英伊 |
| | | 寄居谷川通常砂防 (地域自主) 工事 第 2 期 | 有 限 会 社 米 江 組 代表取締役 米江 猛 | 奥原 忍 |
| | 建築 | 建築 | 島根県立中央病院 小山職員宿舍建設 (建築) 工事 | 株 式 会 社 浜 村 建 設 代表取締役 浜村 一雄 |
| 農林 水産 | 農業 土木 | 平成 24 年度 農地整備事業 (経営体育成型) 出雲西地区 区画整理 (4) 工事 | 有 限 会 社 ナ ギ ラ 建 工 代表取締役 柳楽 明 | 田部 吉修 |

◇優秀建設技術者表彰 (優良業務所長表彰)

| 部門 | 業 務 名 | 会社名/代表者 | 管理技術者 |
|----------|---|-------------------------------|-------|
| 土木 設計 | ロクロ木谷川 (佐貫利谷川) 県単砂防 (避難所対策関連) 工事 測量調査設計業務委託 | 島建コンサルタント 株式会社 代表取締役 小田 基明 | 多久和 豊 |



優良工事表彰を受賞して

株式会社 浜村建設
持田 正司

この度、平成25年度完了島根県立中央病院小山職員宿舎建設（建築）工事に於いて、優良工事表彰を頂き、大変光栄に思っております。

この工事は島根県立中央病院職員増加に伴う宿舎新設の工事でRC造（壁式構造）3階建てでした。

今回工事の特長はまず建設地が住宅密集地である事。次に周辺道路の幅員が狭い事。そして敷地自体が小さい事でした。施工前に発注者と対応について協議を重ねました。

住宅密集地対策として騒音を軽減する為外部足場養生シートに防音シートを採用しました。効果は有りましたが強風時にはシートがあおられ騒音になった事もあり以後の対応には苦慮しました。

周辺道路幅員対策として、資材搬入車両の大きさ制限、進入路の指定、時間制限、速度制限及び誘導員を配置することで対応しました。ただ、方向転換する所のみ舗装修繕が必要になりました。

敷地の狭さについては、職員宿舎場内通路を使用させて頂く為歩行者通路を設置しました。近隣児童の通学路としても使用出来、安全確保出来て良かったです。

施工に際し、熱中症対策と工程管理には悩まされました。7～9月は例年以上の気温が続き作業環境としては大変厳しいものでした。休憩時間の延長やエアコン、スポーツドリンク、冷水器、熱中症対策グッズの使用等により熱中症を防ぐ事ができました。消費税アップ前の工事でしたので駆込需要と折からの職人不足が重なり職人確保が思う様に進みません。各協力業者作業員さんには少人数ながら一生懸命工事を進めて頂き現場を支えてもらいました。又、クレーン車、コンクリートポンプ車等建設機械も需要増で確保が出来ませんでした。かなり前から手配しなければいけなかったのですが台風で工事を中止した時にはコンクリート打設日が2週間も延びました。結局工程は取り戻せず苦勞しました。

又、今回工事は建物位置変更、屋根形状変更、内装仕上変更等かなりの変更が有りました。諸問題に対応した結果ですが施工者も柔軟な考えを常に持ち続け新しい提案をしていく姿勢が必要だと思われれます。限られた条件の中でよりよい選択が出来る様努力しなくてはいけないと思いました。建築工事にも施工上の留意点の提案事項がありますが、品質管理、安全管理について明確で実効性のある提案を行っていきます。当現場では品質管理に重点を置きました。各工種の自主検査を的確に行う事で発注者の満足度と信頼度を上げられたと思います。

このような現場でしたが発注者の皆様、協力会社の皆様、地元の皆様、会社の方々に多大な御理解と御協力を頂き工事を完成させる事ができ、感謝の気持ちでいっぱいです。皆様本当にありがとうございました。今後も現場の条件に即した対応力と技術力を身につけ頑張っていきます。

現在、建設業界の必要性が再認識されている所ですが、労務単価の見直し、技術の継承、若年労働力の確保等問題は山積しています。問題が早期に解決され、魅力ある業界に戻れるよう願います。





全国建災防大会を振り返って

安全委員会

副委員長 三代 修治〔㈱斐川建設〕

私たちは、昨年9月24、25の両日東京都の東京国際フォーラムを会場に行われた創立50周年記念全国建設業労働災害防止大会に参加しました。

最初に、皆様のおかげでこの大会で私の会社が事業場賞をいただけることとなり、感謝をいたします。ありがとうございました。

当日は、天気も良く快晴に恵まれ出雲空港より第2便で出発し、羽田空港を経由し有楽町駅近くの東京国際フォーラムで開会式があり、参加しました。

開会式では、建災防会長の銭高会長の挨拶があり、続いて来賓の厚生労働大臣、国土交通大臣のあいさつ、歓迎の言葉等がありました。

その後、安全衛生表彰、顕彰があり、私も、りっぱな盾をいただき大変ありがたく、うれしく思いました。

その夜は、安全委員と建災防島根県支部の事務局長を始め職員の皆さんで、中筋島根県支部長のお勧めのブラジル料理のシュラスコという肉料理をいただき、大変美味しく満足できました。

二日目は、各専門部会が行われ、そこには、建築・コスモス部会、土木・コスモス部会、安全衛生教育部会住宅部会があり、各々、研究発表や講話の話がありました。

安全衛生教育部会では、まず、東京労働局の安全課長 丸山太一氏による講話（第12次東京労働局労働災害防止計画）があり、この計画の位置づけ、首都東京の特殊性（外資系企業、外国人労働者等）労働災害防止に向けた共通認識の形成が困難な事等があり、そのために誰にもわかるロゴマーク……

“Safe Work TOKYO”をキャッチフレーズに「安全・安心な首都東京の実現」にむけた取り組みを推進していること。

次に、ヒューマンエラー災害を防止する安全衛生管理と題して、日本国土開発㈱の作業所長 井出氏と安全課長 竹内氏による現場での取り組みとして報告がありました。

内容は、新規入場者教育での留意点として、新規入場者の名前を呼称し顔を確認し対話のきっかけを作る。

など、それから、実際に現場でのクレーンを使った実験や足場での実験や事故を想定した実験による安全教育、訓練等、目で見て解りやすい説明で、参考になりました。私たち、安全委員も日々努力をし勉強をしないとイケないと改めて思いました。

この全国大会での研修は、普段聞くことの出来ない発表や講演を体験できて、私たち安全委員にとってレベルアップできるものではないかと思いました。

午後は、少し浅草のほうを観光し、夕方、出雲空港着の第3便で帰路につきました。

最後に「安全は出雲から」といつも分会長が言われてますように、出雲地区が県内のリーダーになるように皆様の事業所を含め、みんなで一緒に頑張りましょう。ご安全に！





年男の抱負

株式会社 浜村建設
浜村 一雄



新年明けましておめでとうございます。

今年は、5回目の年男ということで、昭和30年羊年生まれのも、無事還暦を迎えることとなりました。

私は、学校を卒業してから、中堅ゼネコンに入社し、大阪近辺で仕事に従事しておりましたが、30才で出雲へ帰り、今の会社で仕事に励み、今年で30年となりました。当時からのことを振り返ると、いろいろと個性の強い方達がたくさんおられたことや、あちこちと研修旅行に一緒に行ったことや、いろいろなところでお世話になったりしたことが思い起こされてきます。

60年間、大過なく過ごせたことへの感謝の念と共に、本当に月日のたつのは早いものだと実感させられます。

さて、ここ近年、異常気象や地震などが頻発していますが、去年は、集中豪雨で日本中、あちこちで水害があったり、広島での土砂災害、御嶽山の噴火、あわや大型台風の接近等々連日そんな報道が続いた年でした。

災害に備えたインフラの整備、建物造りあるいは除雪による交通網の復旧や災害後の道路や河川・建物の復旧等。また30年代に、急速に整備されたインフラの老朽化への対応。めまぐるしく速く変わっていく技術の変化に対応したインフラや建物の整備など、建設業の大事さと役割の大きさ使命感を感じさせられます。

さて、都会の方では、建設現場でも、外国人労働者に半分頼るような時代が目前になってきています。出雲の方でも、技術者等の求人を出しても、半年以上も全然反応がなかったり、又職人さんの高齢化も顕著になってきています。若年の技術者や職人さんが育つ環境づくり、魅力のある建設業づくりを、地域ぐるみで考えてお互いが協力してやっけないといけないと思っています。

我社も、会社創立以来52年となりましたが、今後も、地域にとって必要とされる企業、そしてお客様への誠意を尽くした仕事と喜んでもらえる仕事、そして感謝の心をもって、頑張っていきたいと思っています。

最後になりましたが、会員企業の皆様方の益々のご発展をお祈りいたします。

本年も何卒、よろしく申し上げます。



年男の抱負

岩崎建設 有限会社
岩崎利行



新年あけましておめでとうございます。

私は本年3度目の年男を迎えるに至りました。この原稿の依頼をいただくまでは自分が「年男を迎える」という認識がなかったのですが、もうそんな年齢になったのかと思うのと同時に自分の成長の遅さを改めて痛感いたしました。

さて、私は関東地方の大学を卒業したのち数年東京の企業に勤務し、平成18年に地元である出雲市に戻り岩崎建設有限会社に入社いたしました。入社後は総務部で勤務しております。また、平成23年から島根県出雲地区建設業協会青年部会に入会し、様々な方々との出会いで、日々沢山の刺激を受けながら活動をさせて頂いております。

昨年、島根県出雲地区建設業協会青年部会の『出雲農林高校生との現場見学会・意見交換会』という事業に総務広報委員として取材を兼ねて参加させて頂きました。

その中に出雲県土整備事務所の永井所長様に『島根県の建設産業界の明日を支える』と題してご講演を頂いたのですが、人に役立つ施設を、人の手で、仲間とともに作りあげる「人が主役」の建設産業というお話がありました。

ちょうどその頃に、私共の会社では病気療養中の職員が亡くなるという悲しい出来事が有りました。社内では、この前まで一緒に働いていた仲間ですし大きな影響があるのは当然ですが、亡くなられた方の人柄もあるのでしょうか、お客様や同業者の方、また協力業者の方などの社外の方にお会いしても、必ず「〇〇さん、亡くなられたんですね・・・」といった話題になり、人との繋がりというものを強く考えさせられておりました。永井所長様の「人が主役」の建設産業というお話を聞き、まさにその通りだなと強く実感しました。

年男である平成27年は、自分の成長の遅さを反省するとともに、人との繋がりを大切にして、少しでも多くの方々に信頼される人間になれるよう自己研鑽を積み、地域社会、建設産業の発展に少しでもお力になればと考えております。

これから先の一年一年を大切にして次の年男である48歳の時に、現在より少しでも成長したと年男の抱負が書けるよう努力したいと思います。

本年も何卒よろしくお願い致します。



伊勢研修旅行記

経営改善研究委員会

委員長 手銭弘明〔有神門組〕

今年度の親睦旅行は、9月12日から9月14日の二泊三日の旅程で、12日の朝、出雲空港に集合し、大阪・伊勢・鳥羽方面へと旅立ちました。もちろん今回のメインは、平成25年秋に第62回の式年遷宮（20年に一度すべてのお建物を新造）が行われたお伊勢さん参りです。初日は大阪泊りで、到着早々食事を済ませ、シルクドソレイユ（新サーカスエンターテイメント）の移動公演を観劇し、旅の初日にふさわしく、夢の世界へと誘われました。その後、これまた全面開業間もない日本一超高層ビルあべのハルカスから大阪のまちを眺望し、足早に夜のまちへとくりだしました。翌日はバスで、いざ、お伊勢詣で。道すがら神代の王墓を遙かに仰ぎ見ながら向かいました。到着した伊勢神宮では、神宮祭儀部の橋本交渉課長様や神職の北島国造家ご子息に丁寧にご案内頂き、外宮の特別参拝、豪華な昼食後は内宮を特別参拝させて頂きました。その後おかげ横丁でご当地伊勢うどんを食し、身も心も超満腹となりました。もちろん愛しきわが出雲の建設業界に、天の岩戸が開くがごとく光明がさすようご祈願致しました。二日目の夜は鳥羽で大懇親会、皆さんと大いに盛り上がりました。三日目は、世界で初めて真珠の養殖に成功したミキモト真珠島・明治期に建てられた神宮参拝迎賓施設の賓日館・天孫降臨の際に道案内を務め、道開きの神と言われる猿田彦大神を祭る二見興玉神社参拝と、気がつけば日常業務を彷彿させる過密な、いや見どころ豊富な旅でした。二見興玉神社にある大注連縄で結ばれた夫婦岩では、大海に仲睦まじく立ち並ぶ様を見てみると、旅のガイドさんから小声で、一説には、男岩（立石）があちこち遊び回らぬよう、女岩（根石）が男岩を縄で引っ張っているとのことですよとのありがたい解説を聞き、この旅もいよいよ終盤であることに気づきました。昼は松坂牛のすきやき食事会で、明日の精力を取り戻し、帰路につきました。なにはともあれ、親睦旅行の交流は普段では得難いものがあり、良いものです。

終わりにになりましたが、企画準備等お世話頂いた関係各位に心より感謝申し上げます。





斐伊川水系総合水防演習開催さる

株式会社 中筋組

工事統括本部 技術部長 陶山 幸夫

〔斐伊川水系災害対策協力会事務局〕

平成 26 年度の斐伊川水防演習は、「斐伊川総合水防演習・島根県総合防災訓練」（以下、「この演習及び訓練」と記します。）として、中国地方整備局・島根県・出雲市等 6 市 2 町の主催により、5 月 24 日（土）に出雲市武志地先の斐伊川河川敷にて開催されました。拙文ではありますが、（一社）島根県出雲地区建設業協会（以下、「地区協」と記します。）からのご依頼により、ここにこの演習及び訓練の概要について紹介させていただきます。

この演習及び訓練の県内での開催は 5 年ぶり、斐伊川での開催としては 14 年ぶりとなるものでした。演習タイトルは「洪水から守ろう みんなの地域」として、①水防団が主役の実践的な演習、②地元住民等の参加を積極に取り入れた演習、③行政や防災機関が連携する実践的な訓練を演習のポイントに、流域の水防団や消防・警察・関係建設業団体等 52 機関 1300 人の参加のもと、水防工法の実演や救助訓練等に取り組まれたものです。

この演習及び訓練の実施に当たっては、主催者側から（一社）島根県建設業協会と斐伊川水系災害対策協力会（出雲河川事務所と「災害応急対策活動等に関する基本協定（土木工事）」を締結している全ての建設会社で構成しているもので、以下「災対協」と記します。）に参加依頼があり、地区協と災対協の事務局を中心に調整を行いました。地区協の加盟社（今回 5 社の参加）で斜面の崩れ対策工として大型クレーンを使用した「大型土のう工」を、また斐伊川水系災害対策協力会（今回 20 社の参加）



開会式の地区協と災対協の参加者の皆さん

は、急水止対策工として斐伊川の伝統水防工法である「出雲結工」2 基を実施することとなりました。なお、出雲結工では協力会の会員会社の技術者から地元水防団への技術指導を実施して、さらに 3 基を築造することとなりました。

本番 1 週間前には会場で実施されたりハーサルにも参加して、二つの工法ともに一定の段階まで作業を進め、全体の実施内容を確認して本番に備えました。



大型土のう工の実施状況

演習当日は初夏の好天にも恵まれて、二つの工法は予定されていたスケジュールをクリアし、無事に完成した姿を披露することができました。大型土のう工では、お色直し（車体の塗装）を終えたばかりの大型クレーンが土のうを機敏に積み上げ、出雲結工では、協力会の 2 基に加え地元水防団の 3 基が整然と並んで、いずれも会場でひととき目立つ存在となりました。

今回の演習及び訓練には、リハーサルも含め地区協及び災対協の会員の皆様方に大変お世話になり、また安全に水防工法を実施していただきました。紙面を借りて改めて厚くお礼申し上げます。

末尾となりましたが、企画運営に当たられました中国地方整備局及び出雲河川事務所、島根県出雲県土整備事務所、会場の設営及び準備に携わられた山口建設㈱をはじめ関係の皆様方に心よりお礼を申し上げ、筆を置くことといたします。



出雲結工の実施状況

インターンシップ事業に協力しています

当出雲地区建設業協会では、毎年出雲市内にある出雲農林高等学校の生徒をインターンシップ（現場実習）事業として受け入れております。インターンシップの目的は、産業現場で勤労体験をすることにより、学習の進化及び個性の伸長と進路意識の高揚が図られると共に、協調性を養い、地域産業の認識を深めることにあります。

しかしながら、近年、建設産業への就職を希望する学生の減少を耳にしており、建設産業の果たす役割や正確な産業界の姿を伝えること、ものづくりの喜びや高度な技術力を身近に体験して頂き、併せて進路意識の高揚を図り、建設産業に対する理解を深め、関心を高めていただくことも我々の役目であると考えます。

インターンシップ体験談



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科2年 曾田龍太

インターンシップの直前に台風が到来し、どうなるか不安でしたが、無事に5日間行うことができました。

建設関連の職場体験は初めてなので、最初はとても緊張していました。中筋組の本社前に集合して、矢田さんから会社の様子や現場についての話を聞かせてもらいました。現場の話や、土木の話は深い内容でしたので、とても参考になりました。そして、普段あたりまえに思っている毎日の授業や、日々の食事など、先生方や家族のおかげであるという話も特に心に残りました。

初日は台風の影響で天候があまりよくなかったので、予定を変更してもらい事務所で内業をしました。2日目からは現場でレベル測量を行いました。担当の方がとても親切に指導していた

だき、うまく測ることができました。反省としては、野帳の書き方をもう少しできるようにならないといけないと思いました。そのうち少し慣れたのか徐々に野帳も記入できるようになりました。分からないところも、担当の方が理解できるまで説明をしてくださり、そのおかげで最後の頃には、全てスムーズにできるようになりました。

不安で始まったインターンシップでしたが、5日間やり終えて、とても自分のためにもなり、今後の進路の参考にすることができました。ありがとうございました。



島根県立出雲農林高等学校
環境科学科 2年 原田 舜介

今回のインターンシップで沢山のことを学びました。まず、実社会で仕事を続けて行くことは想像以上に大変だと感じました。かといって仕事をしなければ生活が苦しくなります。仕事をするのは当然だと思いますが、一日の3分の1を職場で過ごすわけですから、お金と同じくらい職場の環境も大切だと感じました。

「たのしく働けること」それには職場での人間関係が大事でコミュニケーション能力を磨くことの必要性を感じました。岩成工業の職員の方は仲が良く明るい雰囲気でした。私が戸惑っているときや孤立しかけているときに気軽に声をかけていただきずいぶん助かりました。

印象に残っている現場は平田の火災現場、出雲大社付近の建設現場、奉納山付近の倉庫修繕などです。現場を巡回する中で建設業の仕事内容が思っていた以上に種類が多いことに驚きました。

5日間をとおして、学校では学ぶことができない体験をさせていただきました。担当者の方は時間を割いて指導して頂き感謝しています。現場で思ったように仕事が出来なくて、何をすればいいのか分からないことも度々ありましたが、実社会での貴重な体験となりました。また、今後の進路を決定する上で大変参考になりました。



第27回

サラリーマン川柳

ベスト10

第一生命保険株式会社では、例年サラリーマン川柳コンクールを実施し、サラリーマンはもとより、OLや主婦、学生など誰でも参加できる「サラリーマン川柳コンクール」の作品を受け付けております。

(一社)島根県出雲地区建設業協会では、日頃仕事に追われ、多忙な毎日を過ごされている会員の皆様の気分転換の一助になれば、との思いから2011年の建設会報に掲載したところ、思いのほか好評を博したところであります。

そのため、昨年に実施された第27回コンクールの結果を今回も掲載することに致しました。皆様、どうかひと時の間仕事から離れて、このページをご覧ください。

一位

うちの嫁
後ろ姿は
フナツシ

段三つ

二位

もの忘れ
べんりな言葉
「あれ」と「それ」
政権はママのもの

三位

妻不機嫌
お米と味噌汁
「お・か・ず・な・し」
不幸な男

四位

帰宅して
うがい手洗い
皿洗い

しゅうくりーむ

五位

おもてなし
受けてみたいが
あてもなし

えんかつ

六位

「イイネ」には、
「どうでもイイネ」が
約五割

ほんで？

七位

やられたら
やり返せるのは
ドラマだけ

夢追人

八位

「オレオレ」に
爺ちゃん一喝
「無礼者！」

ビート留守

九位

いつやるの？
聞けば言い訳
倍返し

受験生ママ

十位

わんこより
安い飯代
ワンコイン

春の夢

第27回 第一生命
サラリーマン川柳コンクールより



お世話になりました

一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会

事務局長 小野博己

今回が二度目の寄稿となります。平成21年3月末に島根県職員を退職し、平成21年4月から当協会にお世話になり、既に6年目を迎えております。

振り返って見ますと、私が当協会にお世話になった時の自民政権は、辞任や離党が相次ぎ麻生政権は瓦解状態になっており、地方選挙においても自民党が相次いで惨敗し地方の反乱が起き、自民党そのものが機能不全の状態に陥っていました。

そして、平成21年8月の衆議院議員選挙で民主党が圧勝し、政権交代という歴史的な政治の転換期を迎え、建設産業界は厳しい時代に突入することになりました。

この背景には、マスコミを味方に付けた民主党が「コンクリートから人へ」というキャッチフレーズを大々的にPRしてもらった側面もあるものと思います。

しかしながら、民主党政権も僅か3年3か月で政権の座から落ちることになりました。その理由は、いろいろあると思いますが、実現しなかったマニフェスト、脱官僚・政治主導の迷走、再建できなかった財政、米軍基地をめぐる混乱、中国との関係悪化、子ども手当の挫折、党内対立等失われた理念が原因ではないかと言われています。この間、建設産業界はますます疲弊し、建設業者の激減、経営環境の悪化が進み、現在の技術者・技能労働者の不足などにつながり、日本の経済復興の道筋ができなくなってきたように感じております。

毎年のように公共事業費が減少を続け、政治の変革と建設産業界の凋落状況を目の当たりにし、無事に勤めることができるのかどうか、また、会員の皆様方の力になれるのかどうか心配でしたが、中国の詩人で呂本中という人が言った“心を労するは力を労するにしかず”という言葉思い起こし、頭で考えるより、行動を起こすことが解決の早道で、兎に角、行動を起こすことを一番に心がけようと心に決めて、当協会にお世話になることを決めました。

このような状況の中、会員の皆様は、元気に事業活動に邁進され、私の心配をよそに暖かく迎えていただき、明るく、楽しく、〇〇〇〇お付き合いもさせていただき、充実した6年間を過ごすことができました。

幸いにも、平成24年12月自民政権が復活し、安倍首相主導による「アベノミクス」により、少しずつではあるが経済復調の兆しが見え始めているところではないでしょうか。

私は、34年余りの長い間公務員生活を送り、公という立場で世の中を俯瞰していた気がしますが、いざこの世界へ身を投じてみると、業界の皆様方の社会・地域に対する情熱、貢献度、そして経営に対する努力は、想像以上のものでありました。

この6年間、役所とは全く違うタイプの多くの知己を得ると同時に、人と人とのつながりの大切さなど大きな財産を得たと感じております。中筋会長はじめ、4名の副会長の皆様とは、定期的な会議を通じ、世の中の厳しさ、難しさ、楽しさなど、多くのことを学ばせて頂きました。そして、役員・会員の皆様とも様々な会議、研修会、親睦旅行等を通じ、良好な人間関係を築かせていただきました。本当にありがとうございました。

私は昨年10月に満65歳を迎え、本年3月末を持って当協会を定年退職することになりましたが、皆様方から賜りましたご教訓を生かして、今後の人生を楽しく前向きに送っていきたく存じますので、変わらぬご厚情を賜りますようお願いいたします。

末筆ながら皆様のご健勝とご発展をお祈りいたしましてお礼に併せ、退職のご挨拶とさせていただきます。



編 集 後 記

「景気回復この道しかない」のキャッチフレーズのもと、大方の予想通り自民党、公明党の連立与党圧勝の解散総選挙で終わった2014年。昨年一年間を振り返ると、2012年末の政権交代以降、経済は上昇局面にあり、3月には消費税増税があったものの、その為の駆け込みの特需もあつたりで、総じて全ての分野でそれ以前よりは上向いたというのが一般的な見方であろう。

先般の総選挙において、いわゆる絶対的安定多数を得た与党による政権運営「アベノミクス」経済政策や、我々が生活をする地方にとって期待の、「地方創生政策」によって今後さらに国全体が活気に溢れ、上昇をしていくことを願っているが足元をみるとなかなかそうはいかない現実があるのでないだろうか。

高齢者人口の増加、その反面の生産年齢人口の減少、また、都市と地方の人口格差や経済格差の増大、大企業と中小企業の格差等、特に地方が直面する課題は山積している。この状況は一年や二年で改善できるものではないと思われる。

著名経営者の本で読んだが、「景気は人間が作り出すものである」という一説があつた。確かに、自然現象ではない。すべての経済活動は世界中の人間が行っているものであり、当たり前のことではある。しかし、改めてそう考えれば、景気の良し悪しに右往左往するべきではない。良い時も悪いときも、常にどんな状況でも「当たり前のことを当たり前にする」、基本を徹底する。それができてはじめて、新しい価値の創造であつたり、様々な改善活動が生まれてくるのではないのだろうか。「すべては足元にある」。そんな気がする昨今である。

2015年も、しっかりと足元を見据えながらも、建設産業の明るい豊かな未来の実現へ期待を持ちつつ挑戦し続けたいと思います。